

ひろしまの英学

明治期の英語教科書を読む

幕末・明治期に始まった英語学習の様子について、一般の皆様を対象とした講座を開きます。当時、英語は、日本の近代化を進める上で重要な役割を担いました。言葉だけでなく、その言葉を通じて学問の移入が行われたのです。そうした英語による学問や文化を総称して「英学」と呼びます。江戸時代の蘭学に代わり、英学が盛んに行われるようになった明治期の英語教育について、当時の教科書を読みながら考えていきましょう。

- ◆日 時：平成29年8月9日・8月23日（全2回）
水曜日 18:30～20:00
- ◆会 場：サテライトキャンパスひろしま 605講義室
（広島市中区大手町1-5-3 県民文化センター 6階）
- ◆講 師：県立広島大学 生命環境学部 教授 馬本 勉
- ◆受 講 料：1,000円
- ◆募集人数：30名
- ◆対 象：どなたでも
- ◆申込方法：①郵便番号，②住所，③名前（ふりがな），④電話番号を記入した用紙（様式自由）と，⑤82円切手を貼り申込者の住所・名前を記入した返信用封筒を，平成29年7月24日（月）（消印有効）までに下の申込先にお送りください。申込締切日以降に受講案内と受講料振込案内をお届けします。
- ◆申込・問合せ先：
〒734-8558広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「英学講座」係
電話（082）251-9534（平日9:00～17:00）
- ◆主 催：県立広島大学地域連携センター

《講座の内容》

第1回 8月9日（水）

明治の英語教科書を読む（1）：『スペリングブック』

明治期の英語教科書を毎回1点取り上げ、読んでいきます。第1回はウェブスターの『スペリングブック』。もとはアメリカの子どもたちが発音と綴りを一致させるための教材ですが、明治初期に輸入され、英学の入門書として用いられました。その内容や、独習書の役割などを紹介します。

第2回 8月23日（水）

明治の英語教科書を読む（2）：『ニューナショナルリーダー』

第2回は『ニューナショナルリーダー』。明治時代にもっとも多く用いられた教科書です。アメリカの田園風景を思わせる様々な読み物を、きれいな挿絵とともに紹介する子ども向けの読本ですが、これも日本に輸入され、大量の翻刻版が作成されました。「日本の青少年が外国を知る窓」とも言われたナショナル読本の魅力に迫ります。